

e-dream-s 通信

No.46 発行：2004年6月13日 特定非営利活動法人 イー・ドリームズ

目次

1. 老人閑居して引きこもりとなるか 辻莊一 p.2
2. ECAP 2004：3つの課題「文化の創造」 井川好二 p.3
3. 理事会を終えて 中川房代 p.5
4. 理事会初参加について 矢神 尚久 p.6
5. 理事会に参加して ~グリーン車初体験 岡田かおる p.7
6. やっぱりプラス思考で！貢献の仕方についても、自分なりに 山本貴子 p.8
7. 「海峡に架ける虹」が到着して 富永佐規子 p.10
8. お知らせ p.11



e-dream-s 第16回理事会の様子。広島山本賢治・貴子夫妻邸にて。藤澤俊之理事撮影。(2004年5月30日)

老人閑居して引きこもりとなるか

辻 荘一

母は確か昭和5年(1930年)生まれなので今年74歳のはずだが、至極元気な独居老人である。もちろん体のあちこちに大小不具合はあるようだが、折り合いをつけて活発に動き回っている。夕方電話してもほとんど自宅にいたためしがない。幹事を務める町内老人の旅行に出かけていたり、いつの間にか長崎の親戚の家に行ったりする。

母の人生設計は、十数年前に父が急死して大幅な変更を余儀なくされたのだが、がっかり老け込むのではと言う周囲の心配をよそにその後も、直前まで務めていた山一証券の自主廃業の余波¹も乗り越えて、矍鑠たるものである。

もっとも年を取ったのは確かで、明らかに以前より小さくなったし、足腰も相当弱り JR 山崎駅から200メートルほど坂を上ったところにある墓地まで行くのにも苦労しているようだ。しかし父の母親(故人)への恨みつらみや若いころの苦労話を何度も聞かされるのも、また「誰々さんがね」といきなり私の知らない人の名前を挙げて相手が理解しているかどうか考えもしないで話し出すのも、どちらも若いころからでこれは年を取って老け込んだからではない。

去年は町内会の役員を務め、今は独居老人の会²の副会長の任にあって、最近はその話を聞かされることが多い。近所の独居老人の了見がいかに狭く、ちまちま細かいこと気にするかということに憤懣やるかたない様子で話す。

「月会費を350円にするか400円にするかで、1時間も話をし」「寂しいくせに自分はなるべく役員にならないように立ち回り」「蓄えや細々ともらっている年金をなるべく減らさないということだけしか考えず、世間を狭くしている」爺さん婆さんばかりだ、というわけだ。その後「会長をしている元軍人の誰々さんは立派だ」とか「やっぱり会社でそれなりの地位にあった人は違う」「やっぱりご先祖さまは大事にしなければ」などと続くのはいつも通り。

老後の過ごし方については、人それぞれ事情もあるだろうしなんでも一緒に決めてくれるのはどうかとか、ちょっと違おうだろうと思うところもあるが、母の言いたいことは分かる。退職したり子どもが独立したりして、老人だけで年金をたよりに生活するようになると、それなりの自覚と意志がなければ、どんどん世間から孤立した生活になる。孤立すれば視野も狭くなり目先のことばかり考えるようになり、偏屈になる。偏屈になるとますます孤立するというわけだ。

かつては地域社会があり、老人にはそれなりの地位と尊敬が与えられていた(ような気がする)が、現代社会に於いては、老人は尊敬されないどころか疎まれるのである。ましてや引込み思案で偏屈な老人を好いてくれる人がいるわけがない。人生いくつになってもコミュニケーションの意志と能力が問われるというわけだ。しかし連れ合いを失い弱った体と精神力で、自分も母親と同じように生きられるかと言うと、独居老人になる前からいささか偏屈な息子としては、いささかおぼつかなく感じてしまうのである。無学な母ではあるがちょっと尊敬したりもする今日この頃である。

¹ 元お得意様に多大の損害を与えることになった。

² もちろん何々会という名前があるのだが、忘れた

ECAP 2004 : 3つの課題「文化の創造」

井川 好二

これで二度目となる韓国における ECAP (Educators' Collaboration in Asia-Pacific) だが、実施にあたっていくつかある課題を再確認する必要がある。よく分かっているつもりでも、ともすると疎かになっていることがあるもので、去年の成功に溺れず、気持ちを引き締めて準備を進めることが肝要。

そういった点をまとめれば、以下の三つ。

- (1) 「文化」の再認識と創造
- (2) 人的体制の強化
- (3) 研修手法の改善

まず、「文化」とは何か？常識とは云いながら、どうもこのプログラムの大前提が、忘れられている気がして、今年の参加者とともに、意識を新たにする必要を感じる。

すなわち、Intercultural Communication の観点から「文化」は、以下のように定義される。

Culture is a learned set of shared interpretations of beliefs, values, and codes which affect the behavior of a fairly large number of people.

外国の英語教師と共同で、ECAP と云う教員研修 / 教材作成プログラムを実施するにあたって、こうした「文化」の概念の、共通理解を進めることは、大前提であると云える。

Culture is learned. 文化は学習されるものである。人間は、生まれながらに文化を持っているのではなく、家庭、学校、社会における教育によって、文化を身に付ける動物である。韓国人は生まれながらに韓国人なのではなく、育っていく過程で、韓国人になるのである。日本人も、アメリカ人も同様。

Culture is a shared set of interpretations of beliefs, values, and codes. 文化とは、信念、価値観、規則に関して、共有された「解釈」である。例えば、現在、多くの日本人にとって、「鯨を食べることは、日本の伝統である」と云う考えに賛成することが、「共有された解釈」である。

Culture affects the behavior of a fairly large number of people. 文化は、多くの人々の行動に影響を与える。この要素を考える時、文化は「国」と近いものだと云える。この観点から云えば、例えば、大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国の文化は、非常に異なっていることに気付く。

こうした「文化」一般に関する理解を、ECAP 参加者全体で、共有することが必要である。そのことが、すなわち、ECAP 参加者による「ECAP 文化」を創造への第一歩であることは言うまでもない。

次に、ECAP 2004 実施における人的体制のことを考えてみる。2年目を迎えて、ややルーティン化/固定化が見られる日本側に対して、韓国側の人的体制が、いまだに不安定なのは、いただけない。

文化論的に言えば、教師が自らの研修に Initiative を発揮すると云う文化が、残念ながら、韓国社会では未発達なのかもしれない。しかし、そこで新しい文化の創造なのではないだろうか？ECAP 実施の意味は、そこにもある。

第三に、ECAP 2004 では、去年の「ホテル缶詰方式」から、「現地取材方式」へと、その研修のやり方を変更する。研修場所も、「缶詰」にふさわしい避暑地のリゾートから、「取材」が容易なソウル市内の研修センターに変更した。

この変更は、日本側/韓国側の参加者が、「現地」まで一緒に出かけて、テーマに基づいて「取材」を行うと云う「タスク方式」への転換を意味している。また、テーマの選択は、参加者によって行われるが、その選択、現地での取材などの過程で、日韓の“shared interpretations” や “behavior”の違いを、お互いに発見することが、プログラムの一部として企画されている。

研修方式が「缶詰」から「取材」へ転換することによって、出来上がる ECAP 教材も変化する。ECAP 2003 では、総論的であった教材の内容が、現地での取材を通して得られた、より具体的内容を多く含むものとなる。また、現地取材を行うことにより、デジタル画像、映像などのマルチメディア資料を含む教材として、完成できるデザインとする。

むろん、こうした現地取材を行うにあたり、テーマが重要な意味を持つことは明らかである。テーマの選択は、前述のように、参加者自身が行うが、実行委員会の推奨テーマとして、以下のようなものが考えられる。

- 韓国人の日本人、日本文化に対する意識
- 日本人の韓国、ソウルに対する印象
- 韓国人の「北朝鮮」に対する意識
- 在日韓国・朝鮮人に対する韓国人、日本人の意識
- これからの東アジアのあり方、など

以上、ECAP 2004 の課題を、三点考えてみた。けだし、コンセプトの再確認、人的体制の構築、研修方法の検討。つまるところは、今年でやっと2年目であるにすぎない ECAP を、「アジアにおける教育文化」として定着させるために、今しっかりやる必要のある事柄の確認であると云える。

実施まで後2か月、実行委員会の正念場である。(June 13, 2004)

理事会を終えて

中川 房代

e-dream-s は、年に3～4回のペースで理事会を開催している。事業年度の替わりの5月末～6月初めの時期、8月の総会前、1月初めの3回はほぼ恒例になってきた。今回で16回を数える。

中でも、事業年度の替わるこの時期の理事会は1年間の総括と次年度の方針を論議する一番重要な機会であると考え、論議の時間の保障と全国各地からの参加者との交流・親睦も兼ねて、ここ何年かは1泊2日で行っている。設立初年度の2000年は京都、2002年は徳島県鳴門、2003年は神戸、そして2004年の今年は広島での開催となった。(2001年は7月に西宮；宿泊なしで開催)

いざ、広島へ！

大阪からは井川顧問と矢神さんの運転する車2台に分乗しての3時間ほどのドライブ。到着後、ネットで調べた美味しい「広島焼」を食べてから理事会に臨んだ。とても満足！私が大阪で食べたことのある「広島焼」とは全然違っていった。広島焼のイメージが変わった。(…まあ、私が食べたことのあるという「広島焼」が本物の広島焼でなかったというだけのことなのだが。やはり、“本物”を食したり、見たりして体験することって大切ですね！)



さて、本題。

理事会での決定事項については、このe-dream-s通信の「お知らせ」の項に載せているので、ここでは、その経過や内容などについて書きたいと思う。

今回の理事会で論議すべき大きな議題は、“ECAP 2003の成功&テキストの出版をどう発展させていくのか”“@aglance事業を継続するのか”の2つと、それらを支える“e-dream-s 財政をどうするのか”であった。

ECAPについては、今年も韓国でパート2を実施するが、4月末に出版した「A Rainbow Over the Strait (海峡に架ける虹)」は大きく評価され、新聞などでの報道や購入したいという問い合わせも来ている。これを利用し、e-dream-s や ECAP プロジェクトの認知を広める広報活動として、またテキスト販売を通じた収益事業としての可能性はあるのか？ 出版社から出版したら？

@aglanceについては、昨年5月の理事会で「2004年5月末までの1年の経過を見て、今後どうするのかの判断を出す」ということになっていた。@aglanceは、現在e-dream-sの代表的な事業であり、オンデマンド日本写真や使用例も加え、各方面から高い評価を得てきている。しかし、これは支出オンリーの事業である。この1年間、写真の更新数やサーバーの変更などで支出を抑えてきたが、それでも年間

約 80 万円も掛かる事業である。どうするのか？

@aglance 事業とも大いに関わるが、2003 年度の e-dream-s の収支決算は赤字である。2001 ~ 2003 年度は @aglance の写真の提供で東京書籍から収入があった。昨年度は小口債券を募集し、e-dream-s の運営に大いに利用できた。ECAP の実施に対しても助成金収入があった。(ECAP 会計は e-dream-s の収支とは別会計にしているので直接関連はないが) 2004 年度は、現在、会費収入以外の収入はない。@aglance や ECAP などの事業やプロジェクトを、財政面でどう支えていくのか？

2 日間論議し、e-dream-s の 2004 年度は、ECAP、@aglance の 2 つの事業を中心に活動をすすめていくこととなった。財政的にはもう少し綿密に長期的な見通しを立てながら検討を続けていかなければいけないが、今年度は単年度黒字を目指すこと、そのために議決のような方法(会費の値上げ、協賛金の募集、小口債券の募集) で進めていくことになった。基本的には、会員や協力して下さる方々に負担をお願いし、財政面で支えてもらう方向となっている。

ECAP や @aglance 事業など、e-dream-s は今まで意義あるプロジェクトを行ってきたし、今後もしていく。それは、社会から高く評価されてきている。そのことを再度確認できた理事会だった。だからこそ、財政面をしっかりとしていかなければいけない、当面乗り切る方針だけではダメで、中期的、長期的にも方針を立てていかなければいけないと改めて感じた 2 日間であった。

これは、私をもっとしっかりしないといけない分野。頼りにならず反省すべきこともたくさんありますが、2004 年度は何とか黒字財政に転換していきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

理事会初参加について

矢神 尚久

5 月 29 日・30 日に理事会に初参加するべく広島に行ってまいりました。

そもそも私ごときが何故理事会の一員なのだろう？という思いは常々抱いておりましたが、就任の依頼は「まったく別の業界に身をおく人の意見も取り入れたいから」という理由で、三顧の礼とまではいかずとも礼節をつくした？！ものであったため、私としても微力ながらお力になれるのであれば・・・ということで快諾した次第でありました。かといって、普段何をしてもなく、すっかり自分でも理事会の一員になったことすら忘れていた矢先に、中川先生からの一本の電話がありました。「矢神さん、5 月の 29・30 日で理事会をやります。場所は広島です。車を出していただきたいんですが・・・」「えっ、広島ですか？車を出すんですか？」どうやら断われる状況ではなさそうな感じだ、もし断れば、他の先生の交通手段に影響を及ぼすことになる、それに理事会の一員としてこれといって仕事もしていないという負い目もある、中川先生はそこまで読んで僕に電話してきたんだろう、役者が私などより一枚も二枚も上である。「わかりました、車も出しましょう！ご安心下さい。」こう言うしかできなかった・・・(笑)

そんなこんなで当日、井川先生と私の車の2台で「いざ広島！」。車の絶対性能の差にものをいわせて井川先生の車は山陽自動車道をスイスイと快走していく、さすが新型スカイライン、疾い。こちらはファミリーカー代表のオデッセイ、しかも二世代之前の旧型である。離されないように頑張っついていく。しかもドライバーである私が数日前に腰をいわしてしまい、コルセットを巻いてのドライビングである、「なんで広島やねん、遠いわぁ。」心の中で泣き言をいいつつ顔には出さない、とことん営業マン体質はしみついている。きっと長生きはできないだろう・・・。

しかし、広島に到着してご当地のおいしいモノを食べるにつれ、「やっぱり来てよかった！」と、これまでの苦労もコロッと忘れすっかりご満悦。やっぱり長生きしそうである（笑）。

一日目の会議は参加したにはしたが、ほとんどみなさんの意見を聞いているだけの状態で、存在感をアピールできず、「よし、明日の山本先生の家である会議では頑張ろう！」と自分に言い聞かせ、そして臨んだ二日目。大きい家だった、犬まで大きかった。（山本先生、うらやましい・・・。）まるでモデルハウスでも観に来ているかのように、すべての部屋という部屋をチェックしてまわり気持ちが落ち着いたところで会議開始。しかし、座敷での会議であったため、私の腰には負担が大きい・・・。先生方の配慮でわたしだけ少し離れた場所のテーブルでの参加を認めていただいた。「昨日の分まで今日は頑張るゾ！」と、気合十分?!だったが、この日もほとんど聞くだけで終わってしまった・・・。

結局、初の理事会では「大阪、広島間の送迎」が唯一の仕事という非常にショボいデビューとなってしまいましたが、このイー・ドリームスという団体が社会的にも非常に意義のあることをやっているということを再認識することができたことが、私にとって一番の収穫でした。理事のみなさん広い心で見守ってください!!

最後に、山本先生と道面先生、お疲れ様でした。いろいろ準備とか大変だったと思います。夕食、昼食おいしかったです。筆の里工房も良かったです。ありがとうございました。

理事会に参加して ～グリーン車初体験

岡田かおる

新幹線のグリーン車に乗ったことありますか？ なんと私は先日初体験！ e-dream-s はいろいろな経験をさせてくれる。

e-dream-s の理事会と小学5年の次男の運動会の日程が重なってしまった。運動会は小学校では年間の最大の行事。普段、授業参観などほとんど行かない面倒くさがりな母も、この日だけは特別だ。開会式では司会をやると張り切っているし、演技種目のダンスは家でCDをかけて練習する熱の入れよう。騎馬戦では5年生の大將らしい。

e-dream-s の方は、冬合宿での理事会を除いたら、どこかに集まって理事会というのは私にとっては初めてのこと。昨年8月に理事として承認されてから、ほとんど仕事らしいことをしていない。せめて理事会に出席して、その雰囲気や考えを東京の会員に伝えたい。大阪、広島、九州、東京と会員は分散しているが、とりわけ東京は離れている。電子メールのおかげで、事務的なやりとりには問題はないが、何か足りない。物理的な距離を埋めるには、会って顔を見て、同じ時間を共有することが大切だと思ったりする。

e-dream-s が運動会か？ 悩んでも仕方ない。半分ずつ両方とることにした。初日の理事会は間に合わないけれど、夕食には参加しよう。運動会をお昼のお弁当までで切り上げ、広島へ向かった。ぎりぎりの時間で横浜に着き、新幹線の切符を購入するときに慌てた。指定席が満席の状況に、絶対この「のぞみ」に乗らなくては間に合わない！の思いに、なぜか「グリーン車お願いします！」と太っ腹になっていた。おかげで快適に広島へ。

e-dream-s の活動を始めた頃、私はアクロスでは中級であり、目の前の課題をこなすことで精一杯だった。 e-dream-s？ NPO 法人となって何をやるのだろうか？ そんな疑問を抱き、活動に時間をかけることに消極的だった。引っ張られながら e-dream-s の活動を経験するなかで、それが少しずつ変わってきたように思う。韓国の先生と討論して教材を作るなんて夢の夢としか思えなかったことを実現させてしまう e-dream-s。 e-dream-s のその名前に込められた、「夢を持つこと、実現していくこと」、その楽しみを私は感じているのかもしれない。

実は、広島は初めてだった。夕食まで 30 分時間があったので、チンチン電車に乗り、原爆ドームを見に行った。翌日の理事会を終え、東京へは普通車で帰った。

やっぱりプラス思考で！
貢献の仕方についても、自分なりに

広島支部 山本 貴子

「次回理事会を 5 月末に広島で開催したいと思うのですが。」「あーそうですか。では、道面さんと相談して、考えます。」私は、辻代表理事と中川副代表理事からの電話に“ No.”とは言えないなあと思う、100パーセント前向きではない返答をした。

しかし、道面さんが、「ぜひ、やりましょう。」と言ってくださり、「それでは、私もやります。」と答えた。

こうして、広島での「イー・ドリームズ第 16 回理事会」の準備は始まった。今、振り返ると確かに、理事の皆さんを迎えるわけだから、大変といえば大変なことだった。

まず、宿泊場所および会議室の予約。会議室については、ホテルは高いので、出来るだけ安いところが良い。また、和室は会議には不向きなので、椅子と机のある部屋で。AV 機器の準備は必要なのか。夕食場所及びカラオケの予約。細かいことを言えば、待ち合わせはどこが良いか。1 日目の昼食はどうするのか。2 日目は？はたまた、ホテルと会議室、夕食場所への移動時間は？などなど、ひとつずつ考えていくと、心配もたくさんあった。

だが、ホテルの予約と 1 日目の夕食、カラオケについては、道面さんの担当。会議室の予約と 2 日目の会場、昼食、昼食後の筆の里工房見学については私が、とはっきり役割分担をしたので、大変動きやすかった。そして、ここ最近広島は、イー・ドリームズに貢献できていないので、この理事会は成功させたいな、と準備をすすめるうちにやる気になっていった。

もうひとつ私のやる気を引き出したのは、中川副代表理事の素早いメールの返信と励ましであった。中川さんの気配りには、大変感謝している。

私の分担について話すと、2日目の会場は、我が家で行ったが、これは私が提案したこと。2日目の昼食を私の地元の熊野町というところにさせてもらったので、それなら会議も熊野のほうが都合が良いだろうということになり、「では、どうぞ我が家で。」と申し出た。

その時は、「会場を借りる手間を省くため。」と自分の中では安易に考えていた。ところが、実は、当日の朝の掃除は、思ったより大変であったのだ。



理由は、前日の夕食会場での井川先生の一言。「明日はホテルへの迎えはいいから、家の準備をしっかりしなさい。」そう言われると、「まさか、いろいろ家の中を見られるのかな?!」と勝手に判断し、「えっ、もしかして2階も?」と余計な一言を言ってしまった。そこからが大掃除へのスタートだった。カラオケから帰ってきたのは、夜中の1時前であったにもかかわらず、次の日は5時前に目が覚めた。昨年末の大掃除より気合が入ったと思う。そして、いつもは片付けや掃除を主人に手伝ってもらうのだが、今回はほとんど一人でやった。「やればできるじゃん。」と自画自賛した。

おかげさまで、我が家で行われた話し合いは、皆さんリラックスしてくださり、活発に意見も出し合えた。大阪に帰ってからいただいた、たくさんのメールからもその様子をうかがえたので、本当にうれしかった。「やって良かったんだ。」と心から思った。

正直言うと、マイナス面もあった。

- ・ 雨降りであったため、大阪からの長距離運転はさぞかし神経を使い、お疲れであったろう。
- ・ 私がお勧めした昼食の穴子の蒸籠蒸しは、それほどとはいえなかったようだ。
- ・ ホテルは中心地から離れているため、移動に時間がかかった。
- ・ 1日目も2日目も蒸し暑く、エアコンが効かなかった。

しかし、プラスに考えると、

井川先生のすばらしいナビのおかげで、運転はスムーズに。1日目、2日目のお迎えも必要なかった。

穴子飯はさほどではなくとも、ざる豆腐は美味しかった。

ホテルは海の見える景色の良い場所で、中心地までのタクシー券がサービスとしてもらえた。

エアコンについては、I顧問が人より大変暑がりであると思うので、さほど気にする必要なし・・・かな。

その他、

家の掃除が出来た。

地元の特産品である筆を工房見学で知っていただけた。

道面さんと協力して広島で理事会が出来た。

1日目の夕食場所、酔心は料理もお酒もよく、仲居さんも本当に気さくな方で、皆さんに楽しんでいただけたようだ。

皆さんから暖かいメールをいただいた。

そして何より、今まで理事会やイー・ドリームズで、自分があまり貢献できていないとある種の後ろめたさを感じていたのが、「自分に出来ることをやるのが貢献なんだ。いろんな貢献の仕方があるんだ。」とプラス思考で考えることができた。これが今回の理事会を通じて、私が出た一番よかったこと。イー・ドリームズの課題が資金面なら、出来る範囲で貢献すればよい。

何事においても、「こんなことできるわけは無い。」と何もしないうちからマイナスに考えるのが、自分のためにならない最も良くないこと。今、素直にそう思う。

「海峡に架ける虹」が到着して

富永 佐規子

テキストが届いた時間がちょうど3年生の選択授業の直前の休み時間でした。10分間しかありませんでしたが、急いで箱を開けてテキストを抱え、そのまま教室に直行しました。

早速テキストを配布し、テキストが出来上がるまでの経緯をまず話しました。それからしばらくの時間テキストを自由に読んでもらいました。何に一番興味を持つのかなと見ていましたら、何人かの生徒がノートにハングル文字を写していました。

今の3年生は2年生の時に、英語の教科書で韓国のことを少し学んでおり、そのときにハングル文字のことが出てくるので、興味を持ったのでしょう。尾崎豊の名前をハングルの中に見つけ、「読めた！」と、単純に喜んでいました。自分の名前を何とかハングルで書こうと試している生徒もいました。

3ヶ国語で書かれているというのが面白かったようで、しばらくすると英語と日本語とハングルを読み比べて(見比べて?)お互いにわいわい話していました。

到着直後の授業でしたので、授業案も何もありませんでしたが、生徒の反応は思ったよりもよかったです。今の3年生の生徒とは、1・2年生の時に接点がなく、今回の選択授業がはじめての出会いだったのですが、授業後何人かの生徒が「面白い本だった。」と、わざわざ言いに来てくれました。

2年生担当の英語科の同僚は、「韓国の課のときに、ぜひ生徒分貸してください。この活動(ECAP)を、韓国以外でもやったら面白いのに。」と言ったのでした。ECAPは今後、他の国でも行う予定だと話したら、興味をもってくれました。

テキストの価格など考えなければいけない問題はいろいろあると思いますが、生徒や同僚の前向きな反応に、少し勇気を得たのでした。

お知らせ

1. 「ECAP 2004 Korea」申し込み、締め切り迫る！（締切：6月13日）

「ECAP 2004」への参加申し込みの締切が近づいてきました。

- ・期間：8月17日（火）～20日（金）＜3泊4日＞
* オプショナルツアーは済州島へ、～22日（日）帰国
- ・参加費用：11万円（オプショナルツアー参加者は17万円）
振込もお願いします
- ・参加申し込み先：富永（ECAP 2004実行委員会）まで
e-mail: sakitomiz@yahoo.co.jp
- ・申し込み締め切り：6月13日（日）

2. 「ACROSSアジアツアー2004 DISCOVER極東ロシア」参加者が確定

「ツアー」の参加者が確定しました。

- ・期間：8月3日（火）～10日（火）＜7泊8日＞
- ・訪問地：ウラジオストック、サハリン（ユジノサハリンスク）など
- ・参加者（8名）：井川実行委員長、辻、飯田、岡崎、辻岡、山本貴子、古谷、中川
- ・今後、ウラジオストック・ユジノサハリンスクでの英語教育や日本語教育に関わる施設やコンタクトパーソンと連絡を取り合っていく予定

* 極東地域について、もっと多くの情報を集めていきたいと思っています。ウラジオストックやユジノサハリンスクに関する情報をお持ちの方は、中川までお知らせください。

3. 「e-dream-s第16回理事会」を開催

5月29～30日、広島で「第16回理事会」を開催しました。

2003事業年度の事業報告と収支決算報告があり、2004年度の方針に関しては、以下のことが決定されました。

- 1 . @aglanceについては、今後の目標を「海外写真数1万枚」（約2年半後）とし、それまでは現状のペースで更新を続け、@aglance事業を続行する。（1年ごとに見直し、検討を行う。）
- 2 . 2004年度収支予算については、2004年度はまず「単年度黒字を目指す」こととし、具体的には、
 - (1) 8月の総会で、会費の値上げを提案する。年会費を1万円に。
 - (2) 会費とは別に「協賛金（寄付）の募集」「ワイン（焼酎）プロジェクト」「在庫の便箋の販売」を行う。
 - (3) 小口債券を再度募集する。
- 3 . 2004年度事業方針については、事業の中心は、「@aglance事業」と「ECAP 2004」とする。理事会で提案された「A Rainbow Over the Strait」のテキスト増刷・販売事業（収益事業）の実施については、8月総会で提案できるよう、6～7月期で調査・検討を行う。
- 4 . 「e-dream-s第5回定時会員総会」のお知らせ

- ・日時：8月28日（土）15時頃～17時頃
- ・会場：大阪市立弁天町市民学習センター・講堂
- *午前中に「理事会」を、総会后に「パーティ」を予定

編集後記

理事会や日韓相互理解教材「海峡に架ける虹」について等、今月は多くの方々から原稿をお寄せいただいた。どの文章を読んでも、「前向き」で「元気」なメッセージが伝わってきて、深夜に編集しているにもかかわらず、外に出て駆け出したくなるような、そんな気持ちになった。これが「e-dream-sの文化」なのだろうか。その文化の創造に、自分はどのように関わっていけるのかを考えながら活動していきたい、などと思う梅雨の夜である。（塚本美紀）